

練習試合の結果

22日（水）対細田学園高校
第1試合 8対6 勝利

23日（木）対越谷南高校
第1試合 5対2 勝利
第2試合 17対11 勝利

25日（土）対中大杉並高校
第1試合 15対1 勝利
第2試合 途中まで

通算結果 7勝

体験入部実施

24日（金）、学校全体で体験入部が実施されました（野球部も実施）。（今年も）野球部への興味関心というより、市高への興味関心が高いのではないのでしょうか・・物凄い数の中学生親子に来校していただきました。本当にありがとうございました。第2回は8月5日（水）（ですが、野球部は上限人数に達し、申し込みを締め切っていると思います）、第3回は8月29日（土）・・（上限人数まで残りわずかと聞いています。早めにお申し込み下さい）。



暑い中、ありがとうございました。

本部で観ていて・・

球場主任として（真後ろでプレーを観ていて）感じるがあります。選手にもミーティング等で伝えていますが、再認識していただければと思います。

野球における守備面のミスで一番痛いのは、送球ミスです。捕球ミスはそこでボールが止まり、それ以上ランナーの進塁がないケースが多いのに対して、送球ミスはボールが転々としている間に相手走者の進塁をどんどんと許してしまうことが多いからです（だからこそキャッチボールの練習を丁寧にすることが求められる）。さらにその送球ミスを増やしているプレーはコレ、「セーフに投げる」だと思います。皆さん、文字を読めば冷静に判断できると思いますが、セーフのタイミングの所にどんなに良いボールを投げてでもセーフなのは変わらないのです＝送球ミスのリスクを冒して投げる必要はない。こんなシーンを想像して下さい。ランナー2塁からヒットを打たれ、外野手が間に合わないホームへ1人で送球、その間にバッターランナーが2塁まで進む、次の打者のヒットでさらに点数が加わる・・セーフに投げるのが余計な進塁を許し、さらなる失点を生んでいるのです。

また、先日大会を観ていて、こんなことも感じました。高投（高い送球）は誰も捕れないので、ワンバウンド送球などの（低いボールを投げる）練習をしますが、ワンバウンドの質にも拘らなければならない・・ワンバウンドさせたボールが頂点に達するまでの間に捕球されるような送球でないとなかなかタッチアウトにならないのです（頂点に達して落ちてくる状態のボールをキャッチしてもランナーの足が先にベースに達している・・）。

些細なことかも知れません。

が、その些細なことへのこだわりが勝敗を分けているのです。

（勝つために）意識して欲しいと思います。